

歯車

学校だより

河北町立西里小学校

令和三年二月二十八日

110101010

校長 松山 聡

令和二年度の学校評価「よりよい学校づくりのためのアンケート」では、いくつかの課題が見られました。

その一つに、「ゲームやインターネット等のメディアコントロールができていない。」の項目で、約半数の児童にやり過ぎ見過ぎの傾向がありました。社会全体が携帯やスマホ、ゲームやパソコンなどに依存傾向が見られ、決して子どもだけの問題ではありません。私たち教職員も職員室ではほとんどパソコンを前にして仕事をしています。

子どもの近視が問題になっています。

近視にはいくつかの種類があります。一時的に見えにくくなる「仮性近視」。また、目のレンズにあたる角膜や水晶体の屈折がうまくいかなくなる「屈折性近視」と呼ばれる近視もあります。

しかし、近年子どもに増えているのは、「軸性近視」という近視です。眼軸長という言葉があります。「がんじくちよう」と読み、あまり耳にしたことはありませんが、子どもの目の健康問題に最近取り上げられている言葉です。眼軸長とは、目の表面にある角膜から目の奥にある網膜までの長さをいいます。日本人が成人になると、眼軸長の平均は二十四ミリ程度になると言われています。この長さが数ミリでも長くなると、遠くを見る時にピントが網膜より手前で合ってしまい見えにくくなります。

この眼軸長の長さが、すでに二十四ミリよりもちょっとだけ長くなって

いる子どもが増えているのです。このことは、一月末のNHKスペシャル「わたしたちの目が危ない 超近視時代」でも紹介されました。

本校の児童でも、今年度視力検査を行った結果、視力B(0.7以上 1.0未満)以下と診断された子どもは、学校全体を1とした場合、低学年では11%、中学年12%、高学年22%とされ、近視傾向の子どもが高学年になるにつれて増えていることがわかります。

今後、目を使う場面はますます増えてきそうです。

コロナ禍で、オンライン授業、リモートワーク、テレワーク、在宅勤務などという言葉がよく聞かれます。国は、新型コロナウイルス感染対策の一つとして、コンピュータを学習に積極的に活用させようとしています。来年度から河北町でも小学一年生から中学三年生までの全ての児童に、タブレット(ノートパソコン)が貸し出されます。ICT教育(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)を令和三年度から一気に進める計画です。すでに町の小中学校では、Wi-Fi(ワイファイ)工事が進められ、校内どこでもタブレット学習ができるようになる予定です。また、家庭でもタブレットを活用して子どもの主体的な学習に生かそうとしています。そのために、タブレットは原則家庭に持ち帰りとなっており、これまでの家庭学習が少しずつ変わるはずで

二〇二〇二〇ルールという言葉があります。これは、二〇分間継続して近くを見た後、二〇フィート(約六メートル)以上離れたものを二〇秒間眺めるというルールだそうで、近視を予防する効果があります。キッチンタイマーを活用するといひそうです。また、太陽光を浴びることも大切だそうで、一日あたり二時間程度は屋外で過ごすことも近視予防になるそうです。外遊びも来年度の重点課題です。



就学時オリエンテーションから

